

MAC POWER

10

OCTOBER 2005

VOL. 16 NO. 10
ISSUE 190

¥780

MAC CREATIVE LIFESTYLE

平成2年7月19日第三種郵便物認可 平成17年10月1日発行(毎月1回発行)第16巻第10号通巻190号

あの人が気になっている、
あのクリエイター特集。

ティ・トゥワ

常盤 響

小山薫堂

糸井重里

高城 剛

リリー・フランキー

藤本やすし

小西康陽

桑原茂一

青木克憲

小島淳二

長谷川陸太

桐島ローランド

宮沢章夫

箭内道彦

川崎和男

中村拓志

永島京子

ナガオカケンメイ



酒井俊彦

東京造形大学デザイン学部卒業。コーソーデザインスタジオを経て、1992年 株式会社デザインアソシエイツを設立。主に、家電製品や家具のデザインを手がける。クライアントは三洋電機株式会社/シャープ株式会社/美芝/美芝/富士写真フイルム株式会社/ヤマハ株式会社/ LG Electronics Inc. / Nike, Inc. / 伊藤忠ファッションシステム株式会社など。2003年「LED・ケイタイあかり展」、2004年「JAPANESE DESIGN TODAY 100」などに出品。直近の仕事は、和商店のピーラーと大根おろし器のデザイン/「Let's note W4」「T4」のWeb販売用特別色バージョンのカラーディレクション/ドラえもんの手を模した「テッテター！ ライト」のデザイン——など。現在、福井市の「おいしいキッチンプロジェクト」のデザインディレクションを担当

酒井俊彦が選ぶクリエイター

「ほかのクリエイターの方と一緒に仕事する機会は結構あります。

例えばこれまで経験したのは、グエナエル・ニコラさんや柴田文江さんなど。

一緒に仕事する人を自分で選んで、デザインのディレクションをすることが多いです。

その人の作品を見て、好きで選んだ方と仕事するわけだから、すごく幸せです。

この人と一緒にやりたい、と思っている人とできるんですから。

恋愛だとうまくいかないこともあるじゃないですか(笑)。

でも仕事だから、企画に賛同していただいたうえでお金を出して頼めば、恋愛よりは簡単に一緒になれます(笑)。

仕事なら、お互いに理解し合おうと努力しますよね。片方しか努力しないのとはずいぶん違います。

日ごろから、できるだけ展示会などに行って、いいモノを見るようにしています。

パーティーの日に行くとじっくり見られないので、平日に。もちろん見るのは、新人ばかりではありません。

大御所の人でも、『アレッ』と思うモノを出品していることがあり、すごく新鮮に感じます。

いいモノを見て、豊かな時間を過ごした結果、自分でもいいモノができるんだと思います。

いい映画を見たり、いいリゾートホテルに行くのと同じことですね」

01 wool.cube.wool!

服飾小物デザイナー



1998年にブランドをスタート。2002年から年4回服飾小物の展示会を行っている。2004年、ハンドメイドの本「コラージュ・ソーイング」(マーブルトン)を発行。「セサミ」「プーカ」などの雑誌でもハンドメイドのページを担当。取り扱い店舗はリルモ/リタズダイアリー/パラビオン/ライチー—など

「いま福井の『おいしいキッチンプロジェクト』と一緒にやっているんですが、自分たちの世界でモノを作っているの、正直理解できない部分もあります。でも、彼女たちの展示会にはファンのお客さんがどっとやってきて『きゃかわいいー』です。『これでいいんだ……、ふうん……』と納得せざるを得ません。彼女たちがかわいいうものを作っているのは事実です。感覚も年齢も違う才能のある人と一緒に仕事して、モノが仕上がっていく過程はとても刺激的です」



「夢みる時間」(2005夏物コレクション)。寝る前や何かを作る前の空想する時間がテーマ



「A LITTLE MATCH GIRL」(2005冬物コレクション)。少女が、炎の中に見た幸せな世界がテーマ

02 桐本泰一

輪島塗職人



コクヨ陶意匠設計部に勤務後、桐本木工所に入社。漆器のデザイン提案や創作を始める。「あかりのオブジェ展」「国際デザインコンペティション・石川」「石川デザイン賞」——など受賞。2000年「ギャラリーわいち」を開店、グッドデザイン賞を受賞。今年4月、監修した書籍「いつものうし」(ラトルズ)が発売された

「桐本さんの作品を愛用しています。作品を見ていると、そのプロフェッショナルさ、思想の崇高さがひしひしと伝わってきます。作られる器の凛としたたたずまい。そこから、どう頑張ってもまねできないオーラが漂ってきます。自分の手で物を作る人の特権。桐本さんの碗を眺めていると、シアワセな気分になりつつ、同時に真摯な仕事を続けなければ、と心が引き締まります」



やま樹シリーズ



ネストテーブル・高

03 Ékoca

雑貨ショップオーナー



布作家の石川ゆみと、器好きの福地京子が2003年に始めた雑貨店。石川が制作するバッグのほか、オリジナルの布小物/若手作家の陶磁器/ガラス/木製品/日本の伝統工芸品——などを扱う。コンセプトは「大量生産されていない手作りのもの」。東京都渋谷区恵比寿南1-21-18 圓山ビル2F TEL 03-5721-6676

「私の仕事ではコンセプトとデザインにブレがないことはとても大切ですが、往々にして、それを守るには非常な労力を伴います。Ékocaのショップにはそのへんのブレがまったく感じられませんが、最初にお店に行ったときの印象はまさにパーフェクトワールド。職種は違うのですが、心の底から『こうりたい』といつも思っています(最近ちょっと行っていないんですが……)」



石川ゆみ作のリネンバッグ



麻のキッチンクロスとランチョンマット、熊田恵子作の陶器「ドットボール」、麻ひものかご

04 横山美々子

プロダクトデザイナー



1980年生まれ、千葉県出身。2003年東京造形大学造形学部デザイン学科室内建築専攻 卒業。同年6月より、株式会社ワズワイズ勤務。waazwiz Gallery shop 東京都目黒区青葉台3-17-8 1F、TEL 03-5784-0236。URL <http://www.waazwiz.com/>

「感性というのは非常に微妙なもので、誰にでも高次元で備わっているわけではないようです。自分が理詰めでデザインしていくタイプなので、そういった理屈を超越してデザインを提示できる方にはすごく惹かれます。ワズワイズの工場、横山さんの桜が舞うアクリルの椅子を見たとき、本当にドキドキしたのをいまでもはっきりと覚えています」



「KAMON CHAIR SAKURA」(イラスト)。イタリアでの展示会に4脚出品したところ、その場で売り切れてしまったというイス



「SAKURA 40」。名前の「40」は、アクリルの板厚が40mmであることから付けた。その厚みの部分に、イスと同じ桜をプリント

05 大友 学

デザイナー



大友 学

1978年東京都生まれ。バンタンデザイン研究所インテリア学部インテリアプロダクト学科卒業。家具設計デザイン／インテリア設計／飲食店の総合グラフィックデザイン——などの会社を経て、2001年9月よりフリーランス。プロダクトデザイン／グラフィックデザイン／ディレクション——を中心に活動中。2005年第1回セキスイプロダクトデザインコンペ準グランプリなど、デザインコンペティションの入選多数。使用機種はPower Mac G5 Dual 1.8GHz。使用ソフトはVectorWorks／form・Z／Adobe Illustrator／Adobe Photoshop——など

「初めて会ったのは昨年末、確か東京・新宿の『リビングデザインセンター OZONE』のあかりの展覧会的时候了。前から食器などの作品は知っていて、いいなあと思って見ていたら、大友 学さんが声をかけてくれました。

シンプルな食器を作る若いデザイナーはほかにもいますが、大友さんの作品は少し違う。本当にきれいなんです。人柄が表れているんだと思います。OZONEでは長く話したわけではありませんが、『この人だから、こういう素敵なモノを作るんだな』と感じました。どんな人柄かは、表現するのが難しいんですが……。

デザイナー自身から受ける印象と、作品から受ける印象が同じというのは、実はそれほど多くないんです。大友さんの場合はそれが同じだったから、とても嬉しくなっていました」

——酒井俊彦



毎日の暮らしがデザインのフィールド

「酒井俊彦さんは、大友さんの作品には人柄が表れているとおっしゃっていました」と伝えると、大友 学は戸惑ったような表情をした。確かに大友には年齢に似合わない穏やかで落ち着いた雰囲気漂っている。

彼はまだ27歳、まさに新進気鋭のデザイナーだ。手がける分野は紙媒体のグラフィックデザインやショップ立ち上げなどのアートディレクションもあるが、メインはプロダクトデザイン。数々のデザインコンペティションで入選するなど、着実に実績を重ねている。

プロダクトデザインの傾向は、酒井氏の分析どおり、シンプルでぶれがない。ジャンルの異なる作品でも、どこか大友 学らしさが感じられる。「それは、まだ個性とか作風を確立するに至っていないからでは」とは本人の弁だ。いまは、色でも形でも、そのまま素直に表現されているものが好きだという。それは、大友自身が作るものに限らず、気になるものにも言える。好きなデザイナーは、ジャスパー・モリソン。日常よく観察しているのは、暮らしの中で使う道具など、その形に潜む意味なのだそう。

「日本の古い道具など、暮らしの中で使う道具は、何かしら意味のある形をしているんですよね。削ぎ落とされたデザインのもの、使い方そのものが形になっていることが多い。だから、そのプロダクトがどうしてそのような形をしているのか、ということをよく考えています」

しかし、そのモノがあるべき形にしようとすると、デザイン的な遊びや装飾がなくなってしまうのではないかと

「そうですね、これまでは必要性はあまり感じていませんでした。でも最近、装飾に興味が出始めてきたんです。日本だけでなく西洋でも中国でも、昔のプロダクトには装飾の施されているものがとても多いですね。装飾のモチーフや意味は時代や地域で多種多様ですが、美しいものは人々に喜ばれながら使われてきたという歴史がありますし、モノを美しく見せたいという制作者の意思もあると思います。現在の日本では、形と印象を補ううわべだけの華飾は嫌われますよね。でも、見せかけのシンプル、ミニマルだけではちょっと味気ない。そんな中で、素直な形ながらもその中にうまく溶け込んだ飾りを表現できないかと考えています。例えば『面切り湯呑』の断面は、あえてアンバランスにしました。このような飾り方で『豊かなシンプル』が表現できないかなあ、と模索しています」

このようなデザインに対する姿勢が如実に表れた作品の1つが、「GUMHOOK」だ。この壁掛けフックは弾力性のあるシリコンゴムでできているので、服やタオルを直接掛けても跡が残らない。誤って体をぶつけるようなことがあっても安心だ。サイズが大きく、明るい色使いのバリエーションもあるから、部屋のアクセントにもなる。GUMHOOKは、生活の中で「こういうものがあるといいな」と自らが思ったとおりに制作したという。デザインのヒントは、日常生活の中に溢れている。

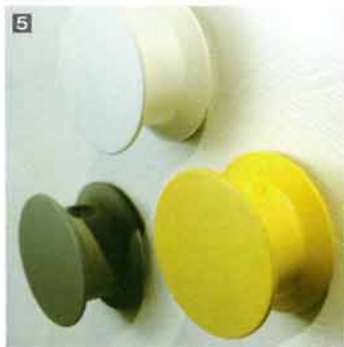
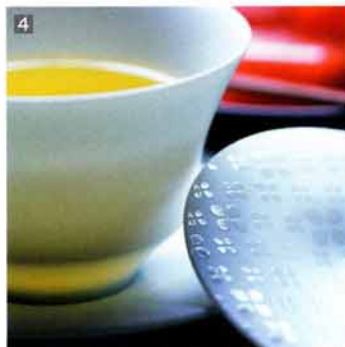
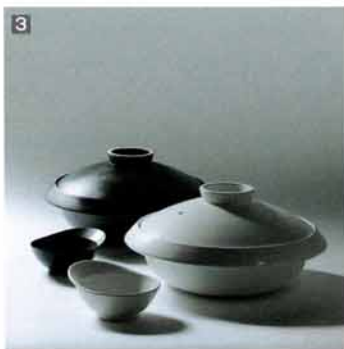
「忙しくてもちゃんと生活するように心がけています。というのは、例えば食事を作らないとキッチンまわりの道具のデザインはできませんよね。もちろん器もデザインできません。掃除や洗濯、スーパーへの買い物など、普通の生活をまんべんなく経験する。洗濯物を干しているときに『安くてもカッコいいハンガーがほしいなあ』などとぼんやり考えながら毎日を過ごします。そんな、無意識のうちに蓄積されていくぼんやりとした考えが、あとから思い起こされてデザインのアイデアが生まれていきます」

モノ作りの動機を考える時間が楽しい

最近のメインの仕事は「NAGAE」という瀬戸発のブランドの磁器のデザインや、セキスイプロダクトデザインコンペで準グランプリを獲得した分別ゴミ箱の商品化を進めている。磁器を扱うのは初めてだったが、オーナーの長江一弥氏は、閉塞感があつた磁器の世界に若い感性が必要だと思い、若手のデザイナーに託したいという気持ちがあつたようだ。出店したのは、ファッションやアート、グルメといったさまざまな分野の最先端である東京・南青山の骨董通り。NAGAEの器は、ジョエル・ロブションのレストランなどで使用されている。

「最近『どうしてこういうものが作りたいのか』、という動機をよく考えるようにしています。また、形をデザインする前の段階からプロジェクトに参加して、どういうプロダクトにしたら意味があるのか、というところから探ることにすごく興味があります。モノをデザインする前に、コンセプトをデザインしたいんです。コトも考えないと、モノに結実させることはできても、種入りの実にならない。種なしの実では、地面に落ちてても次の芽が出ませんよね。何をデザインするにも、いいコンセプトを持ったものを作りたいと思っています」

しっかりとした考えを持っているようで、「なぜそのデザインが気持ちいいのか、ということ、『なんでもかなー?』と思っている程度が楽しい」とも言う。酒井氏が言っていた「人柄」には、そういう気楽さや適当さも含まれているのかもしれない。



『NAGAE「紙平皿」裏面全面にNAGAEの四葉柄が浮き出るように入っている
図 NAGAE「面切り湯呑」ランダムに面切りをした、持ちやすい湯のみ 図
NAGAE「手回り土鍋」「とんすい」土鍋のふちを持ち手でぐるっと回んだ 図
NAGAE「球付煎茶碗・茶托」お茶の色が透けて見えるほど薄く滑らかな表面の
茶碗と茶托のセット 図「輪ゴム掛け」デザインコンペティション海南2003入選
作品 図「アルミの靴べら」富山プロダクトデザインコンペティション2002入
選作品 図「GUMHOOK」シリコンゴム製のフック、富山プロダクトデザイン
コンペティション2003入選作品。h-concept、AssistOnなどで販売中 ※人
物写真と一緒に写っているのはNAGAE「輪もたせ カップ&ソーサー」大きいリ
ング状の持ち手がデザインのアクセント